

[089_01]福岡醫學雑誌 表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7234598>

出版情報：福岡醫學雑誌. 89 (1), 1998-01-25. Fukuoka Medical Association
バージョン：
権利関係：



学位論文紹介

日本人健常男性喫煙者における、飲酒習慣、運動習慣、 食習慣と血清カロテノイド、レチノール、 α -トコフェロールの関連

北村良夫・田中恵太郎・清原千香子・廣畑富雄
富田純史・石橋 誠・城戸春分生

Relationship of Alcohol Use, Physical Activity and Dietary Habits with Serum Carotenoid, Retinol and Alpha-tocopherol among Male Japanese Smokers

Yoshio KITAMURA*, Keitaro TANAKA, Chikako KIYOHARA, Tomio HIROHATA,
Yoshifumi TOMITA, Makoto ISHIBASHI and Kazuchikao KIDO

*Department of Public Health, School of Medicine, Kyushu University

International Journal of Epidemiology, 28 (2), 307-314, 1997.

論文内容要旨

目 的

カロテノイド、レチノール、 α -トコフェロールの癌予防、動脈硬化予防について関心が高まっているにもかかわらず、これら脂溶性微量栄養素の血清濃度規定要因については、現在もほとんど知られていない。本論文は、これら血清微量栄養素濃度とライフスタイルの要因及び血清脂質、リポタンパクとの関係を明らかにすることを目的とした。

方 法

飲酒歴、運動習慣、食習慣を含めたライフスタイルの要因及び血清脂質、リポタンパクとカロテノイド（リコペン、ルテイン、クリプトキサンチン、 β -カロテン）レチノールそして α -トコフェロール血清濃度の関係を年齢24~60歳、1日喫煙量15本以上の健常男性194名で検討した。自記式調査表によって12食品項目の摂取頻度、アルコール消費量、運動レベルそして1日喫煙本数を調査した。

結 果

野菜の摂取頻度は血清 β -カロテン濃度と有意な正の相関を示し、果物摂取頻度は各カロテノイドの血清濃度と有意な正の相関を示した。豆腐を高頻度に摂取している者では、血清クリプトキサンチン、 β -カロテン濃度が有意に低値であった。アルコール摂取量は、ルテインを除く各カロテノイドと強い負の相関を、血清レチノール濃度とは正の相関を示したが、血清 α -トコフェロール濃度との相関は認めなかった。スポーツの頻度は、レチノール、 α -トコフェロールと、ともに有意な正の相関を示した。1日あたりの喫煙本数は、おのおのの血清微量栄養素濃度と相関しなかった。

結 論

野菜や果物の摂取頻度は、喫煙者においても、血清カロテノイド濃度の重要な規定要因であることがわかった。アルコール消費量は機序不明ながら、血清カロテノイド濃度と負に相関していた。豆腐摂取頻度と運動習慣はこれら脂溶性微量栄養素の血清濃度に影響を及ぼすことがわかった。